

共生

奈良県生協連

2022年4月

NO.124



奈良県生協連
第32期臨時総会



ピースかふえⅢ「ヒロシマの誓い ～サーロー節子とともに～」

もくじ

2022年度奈良県生協連が取り組んで行くこと…	1	ピースかふえⅢ「ヒロシマの誓い」……	6
2030年ビジョンに向けて……………	2	憲法学習会・いつでも健康チャレンジ…	7
奈良県生協連第32期臨時総会……………	3	環境のページ……………	8
生協組合員理事交流会……………	4	防災・未来アクション……………	9
若者応援プロジェクト奈良……………	5	労働者協同組合法施行に向けて……………	10

2022年度 奈良県生協連が取り組んで行くこと

新型コロナウイルス感染症対応が引き続き社会全体の重要課題になり、ウイズコロナを想定した柔軟な対応が求められます。また、ロシアのウクライナ侵攻により社会・経済への影響が懸念されています。つながりを大切にし、行政・諸団体のみなさま、会員生協のみなさまと共に平和とより良い暮らしをめざして取り組みます。

1. 会員のための連合会として会員生協の健全な発展を支援します。

- ① 会員と社会的諸課題を学び考える場を設けます。
- ② 会員同士の活動交流と連帯をすすめます。
 - 1) 理事長交流会や生協組合員理事交流会は、会員同士の情報交換や学習・交流の場として開催します。
 - 2) コロナ禍による会員の事業や活動への影響を会員同士でたすけあって乗り越えます。
困っている学生を支援するため「若者応援プロジェクト奈良」を会員と連携し、諸団体の協力を得ながら継続します。
 - 3) 暮らしを取り巻く諸問題について諸団体と連携し、会員へ情報提供します。
- ③ 渉外・広報活動を強め、生協の社会的活動の認知度向上に努めます。

2. 奈良県生協連は、地域社会に対して生協の窓口としての役割を果たします。 また、同時に県行政や諸団体と地域とのネットワークの一翼を担います。

- ① 奈良県行政とは生協・行政協議会を開催し、県の施策や生協連の取り組みの懇談の場として継続します。
- ② 安心して暮らせる地域共生社会づくりに取り組みます。
 - 1) 新型コロナウイルス感染や高齢化による健康や将来不安が高まる中で、奈良県医療福祉生協とともに健康づくりを支援します。
 - 2) 社会問題を背景に地域の多様化するニーズに対応し、誰ひとり取り残さない「地域共生社会」の実現に努めます。
社会福祉法人奈良県社会福祉協議会と困りごとの解決のために連携して取り組みます。
 - 3) 「奈良子ども食堂ネットワーク」「特定非営利活動法人フードバンク奈良」の活動を支援します。
- ③ 近畿地区生協と近畿農政局との懇談会に参加し、生協や消費者の声が政策に生かされるように交流を通じて要請します。

3. 生協の事業発展を通して、協同組合の理念と価値を広め、地域共生社会づくりに貢献します。

- ① 協同組合間の交流・連携に努めます。
 - 1) 奈良県協同組合連絡協議会を通じて協同組合間連帯を強めます。
 - 2) 日本協同組合連携機構を通じて県内の協同組合間の相互理解、連携強化、活動紹介に努めます。
 - 3) 労働者協同組合法の2022年10月施行に向けて日本労働者協同組合連合会と学習や交流を通じて連携に努めます。
 - 4) 協同セクター間連携の一環として近畿労働金庫と連携します。
- ② 協同組合理念の学びや実感できる場づくりに取り組みます。
 - 1) 協同組合の存在意義や価値を学ぶ企画は、都度テーマを設定し開催します。
 - 2) 奈良県生協大会は、生協の活動を内外にお知らせし、学び交流する場として企画します。
 - 3) 近畿地区府県連協議会に参加し、連帯した活動の推進と活動交流をすすめます。
- ③ 地域防災と被災地支援に取り組みます。
 - 1) 県の防災統括部門と定期的に懇談し、災害発災時の連携強化に努めます。
 - 2) 「関西災害時物資供給協議会」へ参画し、関西広域連合や奈良県防災部門との連携を図ります。
 - 3) 「奈良防災プラットフォーム連絡会」へ参画し、三者連携についての学習や交流をすすめます。
 - 4) 日本生協連関西地連大規模災害対策連絡会に参加します。
- ④ 消費者市民社会の形成に寄与します。
 - 1) 特定非営利活動法人なら消費者ねっとの2022年適格消費者団体認定の取り組みを支援します。県内での消費者被害の未然防止・拡大防止に向けた学習・啓発を共に取り組みます。
 - 2) 消費者支援機構関西(KC's)の活動に引き続き参画します。
- ⑤ 平和の取り組みを推進します。
 - 1) 戦争も核兵器もない平和な社会の実現に向けてピースアクションをすすめる会とともに取り組みます。
 - 2) 被爆者手記集「奈良県のヒバクシャの声～地域で継承する被爆者の思い第一集」は、平和学習に活用します。奈良在住の被爆者証言の継承に引き続き努めます。
 - 3) 大学生協学生委員による平和活動「Peace Now! 奈良」に協力します。
- ⑥ 自然・暮らし・エネルギーの地域共生をめざして取り組みます。
 - 1) 再生可能エネルギーをすすめる県内諸団体と共催し、学習や事例交流等に取り組みます。
 - 2) なら健康・省エネ住宅を推進する県民会議の「住環境と健康に関する取り組み」や「奈良県民の生命と健康を守るための県民運動」を支援します。

奈良県生協連 2030年ビジョンに向けて

「奈良県生協連2030年ビジョン(以下、2030年ビジョン)」は、奈良県において将来にわたり組合員のくらしを守り、社会貢献を果たすため、2009年に答申された「奈良県生協連の将来ビジョン(県連あり方検討会答申)」を振り返りました。会員生協の事業発展と共に地域共生社会をめざして第33回通常総会提案に向け協議を進めています。

協同組合の現状

国連は2009年の総会で2012年を「国際協同組合年」とすることを宣言しました。また、ユネスコは「協同組合の思想と実践」を無形文化遺産登録(2016年)としました。今までの活動で協同組合の価値と役割が評価されてきました。

さらに2018年、新たに結成された日本協同組合連携機構(JCA)による全国での連帯活動の推進が期待され、「労働者協同組合法」(2022年10月施行)による多様な雇用創出の展望で協同組合自らが地域で果たす役割・機能が広がる可能性を秘めています。

奈良県生活協同組合連合会は、生協法と定款に掲げる目的を達成するために、会員のための連合会として会員生協の健全な発展のための支援をし、生活協同組合の地域社会の窓口としての役割を果たします。

また、誰ひとり取り残さない持続可能な社会をめざし安心してくらし続けられるネットワークの一翼を担います。3つの柱を以下のように整理しました。

I～IIIの基本の柱の流れは、

[奈良県生協連のありたい姿]

I 会員のための連合会として会員生協の健全な発展を支援します。

- ・会員の事業と組織の特徴を理解して様々なテーマで会員や組合員のくらしに貢献
- ・会員の事業や活動に必要な情報収集、発信を通じて貢献
- ・学ぶ場や交流を通じて会員の事業や活動を支援

II 奈良県生協連は、地域社会に対して生協の窓口としての役割を果たします。また、同時に県行政や諸団体と地域とのネットワークの一翼を担います。

- ・行政との連携、生協間連携、協同組合間連携、諸団体との連携が今よりもっと進み、新たな活動や運動につなげる
- ・同時に地域社会の中で行政や諸団体と良好な関係を今まで以上に築き、問題解決

III 生協の事業発展を通して、協同組合の理念と価値を広め、地域共生社会づくりに貢献します。

- ・協同組合の理念と協同の価値を広め、「つながり」のネットワークをさらに強める
- ・「つながり」から「共助」が広がり、「地域共生社会」づくりに向けて必要な存在として役割を果たす

奈良県生協連 第32期 臨時総会

1月20日ならコープ会議室で第32期臨時総会を開催しました。

奈良県労働者共済生活協同組合の総会で中井信司前専務理事が退任されたことに伴い、奈良県生協連の副会長が欠員となりました。そのため奈良県労働者共済生活協同組合から新たに奈良県生協連の理事を退任するために行いました。

当日は、新型コロナウイルスの感染拡大予防の観点から代議員27名に対し、会場出席は3名、書面議決24名での開催となりました。

新たに奈良県労働者共済生活協同組合の奥野裕と専務理事が理事に就任されました。その後開催された第5回奈良県生協連理事会で奥野裕と理事が副会長に互選されました。



会場のようす

承認された議案

第一号議案 役員補充選任の件



中井信司さん

退任のごあいさつ

奈良県生協連では、第29期から第31期まで副会長を務めさせていただきました。森会長をはじめとする理事・監事の皆様、各会員生協や奈良県生協連の皆様には多大なお力添えをいただき、ありがとうございました。

3年間という短い期間でしたが、奈良県生協連の活動にかかわらせていただき、共済生協だけでは知りえない生協の活動の深さに触れることができました。あらためて「組合員視点」の大切さは共済事業にも大いに参考にさせていただくことができました。

コロナ禍などによって世情は不透明感が漂っています。こんな時こそ基本に立ち返り、「組合員の生活の安定と生活文化の向上」という生活協同組合の大目的にむけて、事業領域の枠を超えた「組合員のちゃぶ台を守る」ための連携や協同の取り組みに期待しています。

私自身は昨年7月末をもって奈良県労済生協・こくみん共済coop<全労済>を退職し、現在は関連事業会社で、共済事務や共済金支払い業務などで組合員をバックヤードから支える業務、役割に従事しています。悪戦苦闘する日々ですが、大阪・堺の地からでも「奈良」を応援する気持ちに変わりはありません。

奈良県生協連ならびに会員生協のますますのご発展と皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

就任のごあいさつ

この度、理事に就任をしました奈良県労働者共済生活協同組合（以下、奈良労済）の奥野裕と申します。前任の中井同様、会員生協の皆さま方と共に学び、連携し、精一杯務めさせていただき所存です。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

私が所属する奈良労済は、単協法人としての「単一事業体」と、「連合会の推進本部（こくみん共済coop奈良推進本部）」の2つの性格を持ち合わせています。

奈良労済の事業は「慶弔共済」のみですが、奈良労済の組合員になっていただくことで、連合会事業の「火災・自然災害共済」や「マイカー共済」など各種共済をご利用いただくことができます。

労働者共済事業は、1954年12月に「誰もが入れる保障があれば安心して働ける」と大阪で火災共済事業を開始しました。奈良においては1961年5月に「お互いの生活を相互扶助の力で一層擁護する」ことを掲げ事業を開始しました。

事業開始以来、数多くの困難に直面しましたが、1955年の新潟大火（事業開始5ヵ月後に掛金収入を上回る共済金の支払い）では、「負債はいつか返せる、信頼は失ったら取り返せない」の言葉のもと関係団体等の支援を受け、共済金の全額一括支払いを行いました。

1995年の阪神・淡路大震災では災害発生直後に見舞金基準を改定（全壊200万円を300万円へ引き上げ）し、約186億円の見舞金をお支払いするとともに、自然災害においては公的保障制度の整備が不可欠と考え、日本生協連・協力団体・兵庫県とともに約2,500万人の署名を集め、「被災者生活再建支援法」の成立につなげました。2011年の東日本大震災では、最後のお一人までを合言葉に約1,289億円の共済金・見舞金をお支払いし、多くの組合員とたすけあいの輪を結び、困難を乗り越えてきました。

奈良労済、奈良県生協連の活動を通じ、「協同精神が息づく安心安全な暮らし・地域づくり」に貢献できるよう努力してまいりますので、会員生協、関係諸団体の皆さまのご指導とご鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。



奥野裕和さん

生協組合員理事交流会オンラインで開催

協同組合って何？



2022年1月21日
奈良県生活協同組合連合会
生協組合員理事交流会
青木 美紗

1月21日奈良県生協連の生協組合員理事交流会を完全オンラインで開催し、38名（内講師1、事務局3）が参加しました。今年度は奈良女子大学の青木美紗先生から、オンラインで「協同組合って何？」の講義をお聞きして、グループ分け機能を使って交流しました。労働者協同組合や協同組合基本法についての情報提供もあり、勉強していきたいとの感想も出されました。

青木美紗先生のお話

協同組合の理念と仕組み（協同組合の定義と価値、協同組合の原則）について株式会社との違いや協同組合の特徴や弱点などを分かりやすく解説されました。

協同組合の歴史では、イギリスのロバートオーエン、ロッヂデール公正先駆者組合から始まり、日本の農民の土着的相互扶助システムなどの協同のルーツ（江戸時代末期）や資本主義導入後の協同のルーツ、賀川豊彦や日本生協連の設立の歴史の紹介がありました。

グローバル化と行き過ぎた資本主義のなかで、今なぜ協同組合が大事なのかについて話され、2016年ユネスコの無形文化遺産に登録されたことに触れ、ユネスコの評価である「協同組合は共通の利益と価値を通じてコミュニティづくりを行うことができる組織であり、雇用の創出や高齢者支援から都市の活性化や再生可能エネルギープロジェクトまで、さまざまな社会的な問題への創意工夫あふれる解決策を編み出している」と紹介されました。一方で、グローバル化を牽引しているのは、大企業と大資本家であり、金持ちの人たちに、よりお金が集まるしくみになってきている。今までは地域の中で物やサービスが循環してきたが、海外にも依存すると、グローバル化によって地域の中で社会的弱者が必ず出ると危機感を示され、協同組合への期待を話されました。組合員理事への期待として、「組合員や職員、地域の声を聴くこと」「組合員の声を組織に伝えること」「協同組合の理念を忘れないこと」を伝えられました。

「生協組合員理事交流会」は、奈良県生協連の会員であるならコープ、コープ自然派奈良、生活クラブ生協、奈良県医療福祉生協の組合員理事さん対象の交流会。2010年から継続して開催し今回で11回目。各生協からの代表者で実行委員会を構成し、どのような交流会にしていきたいのかを考えます。

グローバル化の中の協同組合への期待

- 協同組合はその仕組み上、生活基盤に関する事業によって地域の中で経済を循環させることができる。
- 協同組合は組合員の共有財産であることから、だれかの私有物でないため富が偏在することがない。
- 協同組合は多様な組合員の意見をもとに運営するものであるため、組合員が他者のために「おかしい」と思ったことは止める（ブレーキをかける）ことができる。

組合員理事へのメッセージ

- 協同組合は生活基盤を事業とし、地域経済を循環させる、市民生活にとって重要な組織
- 協同組合の理念を学びつつ、他者に配慮し、みんなで考えながら一緒に創り上げていくこと（市民運動）ができる組織
- そんな素敵な組織に関われる理事という存在はとっても貴重！組合員としての感覚、他者の尊重、優しさを忘れずに！

グループで出された感想

他者への配慮が必要というところが大事だと再認識できた。子どもの貧困問題についても、グローバル化のお話を聞いて理解できた。平和の上にしからしが成り立たないということも改めて確認できた。活動組合員にも「生協について」基本的なことを学ぶ機会を作りたい。

生活協同組合はいっぱい可能性がある。可能性を探してできることからやっていきましょう。

若者応援プロジェクト奈良

1年を
振り返って

コロナ禍で困っている学生さんがいるのではないかと昨年5月に大学生協へのヒアリングから始めたこのプロジェクト。フードバンク奈良や会員生協に協力を呼びかけ、最終で、延べ12大学の学生2000名以上に食品を渡しました。この1年を振り返ります。

若者応援プロジェクト奈良の軌跡



- | | |
|---|---|
| 5月23日 奈良女子大生協、奈良教育大生協、奈良県立大生協、奈良高専生協に聞き取り、企画打合せ | 11月~12月 奈良市内8大学に奈良市より米を希望数量配布 |
| 5月28日 第1回オンラインで協議開始 | 11月3日 奈良県医療福祉生協を通じ協同福祉会の奈良佐保短期大学留学生の情報を得る |
| 6月8日 第2回オンライン会議、奈良女子大学生協でHP受付開始後15分で埋まる | 11月8日 奈良佐保短期大学を訪問・話し合い 日程決定 |
| 6月16日 ①奈良女子大、奈良教育大、奈良県立大学生対象に配布111人（天理教梅谷大教会） | 11月22日 第6回オンライン会議 |
| 7月7日 第3回オンライン会議 | 11月29日 ⑤奈良佐保短期大学学生ホールにて100人 |
| 7月20日 奈良県共同募金会交付申請（40万円） | 12月6日 奈良県医療福祉生協理事懇にてプロジェクト報告 |
| 7月21日 ②3大学生協にバックご飯とレトルトカレー404セット配布 | 12月6~17日 ⑥奈良女子大学300人 ⑦奈良教育大学10人
⑧奈良県立大学150人（袋詰め12月15日のみ） |
| 8月23日 第4回オンライン会議 | 12月14日 ⑨天理大学2回目（120人） |
| 9月23日 天理大学を訪問・話し合い | 12月15日 奈良大学を訪問・話し合い 日程決定 |
| 10月11日 ③奈良女子大学の留学生ほか130人に白米5kg | 2022年1月 奈良市内8大学に奈良市より米希望数量配布（2回目） |
| 10月14日 第5回オンライン会議 | 1月18日 ⑩奈良佐保短期大学（数の子、鏡餅搬入のみ） |
| 10月29日 ④天理大学学生ホールにて110人（1回目） | 1月19日 ⑪奈良大学（300人）（搬入1月17日のみ） |
| | 2月1日~ ⑫奈良教育大学（150人）（搬入袋詰めのみ） |
| | 3月18日 第7回オンライン会議（2022年度計画） |

第1回目では、100名を定員にして大学生協のSNSを通じて「食品配布」の希望者を募ったところ、あっという間に定員に迫りました。この状況とアンケート結果から私たちの認識は180度転換させられました。

この取り組みでは多くの方に出会い助けられました。まずフードバンク奈良理事で天理教旭日大教会の岡本さんの紹介で初回の会場を貸していただいた天理教梅谷大教会のみなさんです。1週間部屋を貸していただき、泥だらけのジャガイモの天日干しまで付き合ってください、無事に配布終了できました。他大学と接点を持たない私たちは大学生協に頼りしかなく状況でしたが、突破口を開けていただいたのはやはり岡本さんの紹介の天理大学杉山准教授でした。天理大学につないでくださり、その実績や報道で他大学にもつながりました。どこの大学も学生たちがここまで困っている状況だとは掴み切れていませんでした。

「このプロジェクトでは、食品を渡すことにより物質的に食べられるようになっただけでなく、対面で配布することで、学生は他者の存在に気付いたのだと思います。学生が得たものはいろいろなものであり大きな財産だと思います。」と前述の杉山准教授。新年度も取り組みを継続していきたいと思っています。



ピースかふぇⅢ 「ヒロシマの誓い ～サーロー節子とともに～」上映会開催



同情は求めません。人々に行動してほしい。
そのために私は語り続けるんです…サーロー節子

2月12日に奈良ロイヤルホテルで上映会が開催され54名が参加しました。

核兵器を全面的に禁止する世界の新たなルールである「核兵器禁止条約」が2021年1月22日に発効しました。この映画は、サーロー節子さん(カナダ在住)という一人の女性のしなやかな人生を通して、原爆投下から77年をかけて世界がいかに核兵器廃絶に向けて進んできたかを描いています。恋、留学、結婚、出産、子育て、そして被爆証言活動。私たちにも核の恐怖からいのちを守るためにできることがある…今を生きる私たちに向けての希望の物語です。トロントに在住するサーロー節子さんを4年間密着取材したドキュメンタリー映画です。



竹内道さんとサーロー節子さん



ノーベル平和賞授賞式(提供: ICAN)

サーロー節子さんは、13歳の時に広島女学院高等女学校在学中に学徒動員先にて被爆。300人以上もの学友を一瞬にして亡くした。1954年にアメリカに留学、カナダ人のジム・サーローさんと結婚しカナダのトロントに移住する。世界各地で英語の被爆証言活動を続けICAN発足当時よりICANを代表して国連や国際会議にて被爆者としての体験を語り多くの人に影響を与えた。

サーロー節子さんと同じ広島女学院の卒業生で、自身も被爆2世の竹内道さんがプロデューサーを担当した。

祖父竹内劔さんは広島赤十字病院の院長時に被爆、母の竹内孝子さんは入市被爆した。

「核兵器と人類は共存できない」と生涯をかけて世界中に訴えてこられたサーロー節子さん。2017年12月にノーベル平和賞を受賞した国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)に創立時から参加し、授賞式でもスピーチを行った。何十万人のヒバクシャの声を代表し一言一言、力強く訴える姿が描かれている。75年前に1発の原子爆弾で地獄と化した広島。「同じ体験を2度とだれにもさせてはいけぬ」との熱い思いが伝わってくる。軍医だった竹内さんの祖父竹内劔さんは、被爆し重傷を負いながらも広島赤十字病院の院長として、被爆者治療の指示を続けた。祖父は道さんに被爆体験を語ったことはなかった。道さんはサーロー節子さんと出会って、祖父の足跡を調べ語り始めた。

参加者からは鑑賞後、「涙が止まらなかった」「力強い一言一言、その情熱と力に感動した」「これからが始まりだとの言葉が心に突き刺さった」「同情してほしいのではなく行動してほしいという言葉が印象に残った」等の多くの感想が寄せられた。

とても説得力のあるサーロー節子さんの姿に感動して涙が止まりません。なのに日本が条約に締結しないくやしきもどかしさ、何とかしなくてはと強く思いました。この映画をぜひ将来のある子供たち、若者に届けてください!

節子様がノーベル平和賞の受賞後にこれが始まりですとおっしゃった言葉が強く心に残っています。

涙が止まりませんでした。サーローさんの情熱と努力と世界を動かした感動で涙が止まらなかったと思います。条約が発効しても、これからがスタート。

節子さんのことは知っていましたが、こんなにも熱く温かくそして強い意志の方と知ることができて、涙が止まりませんでした。そして彼女をそうさせた原爆というものの非人道的なものに、核兵器をもっと日本で反対の声を上げなければと思いました。

憲法学習会

コロナ禍で見えてきた 憲法の大切さ

1月29日ならコープ本部会議室で中田進氏（関西勤労者教育協会副会長）を講師に「コロナ禍で見えてきた憲法の大切さ」をテーマに憲法学習会を開催しました。ならコープ、ならコープ労働組合、ならコープボランティアグループ平和の会、奈良県生活協同組合連合会の4団体が共催し59名（会場29名、オンライン30名）が参加しました。

中田氏から①国民の権利としての憲法であること、②国家権力を縛るのが憲法の力であること（憲法を尊重し、擁護する義務）、③改憲の動き（誰のため、何のための改憲）、④「今こそ暮らしと平和のために学習を力に・草の根運動を」について語っていただきました。

中田進氏の講演より

●コロナ禍で今二つの危機にさらされています。

ひとつは、人間らしく生きる権利である生存権が生かされていません。医療崩壊、ベッド数不足、看護師・医師と保健所の削減、病院削減など消費税が病床削減の財源に使われるなど医療・社会保障削減につながっています。もうひとつは、人間らしく働く権利です。宿泊・飲食業・文化イベント・交通関連の会社などともに補償されておらず新自由主義の閉塞、格差と貧困、雇用崩壊、大企業への減税など格差が広がっています。

●改憲の動きは、今どうなっているか

新型コロナウイルス対策で緊急事態宣言が発せられ、改憲4項目の一つである緊急事態条項を国会の憲法審査会で議論を進めるべきとの改憲論議があがっています。

自由民主党からすでに2012年に日本国憲法の改憲4項目を内容とする条文を発表しています。改憲案は、自衛隊の憲法明記（第9条）、緊急事態条項の創設、教育の無償化、合区の解消（参議院選挙区の合区を解消し、各都道府県から1人選出可能に）を内容としています。

最後に中田氏より「憲法をよくするのも、悪くするのも私たち次第であり憲法について学び、自分の考えや想いをしっかり持ちましょう」と呼びかけがありました。

憲法についてあらためて学び、考え、関心を持つ機会になる学習会となりました。

いつでも健康チャレンジ

奈良県生協連地域・くらしづくり活動支援金事業

「わたしのつながりチャレンジ」の取り組み

奈良県医療福祉生活協同組合 専務理事 福山明弘

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大が、組合員活動に大きな影響を及ぼしました。これまで健康に関する様々な企画を行ってきましたが、「人が集まること」が感染のリスクとなりました。

医療福祉生協では10月から12月を生協強化月間として、健康づくりの活動を大事に広めています。健康づくりには運動がとても大切ですが、それ以上に「人と交わり会話すること」いわゆる（食事会などでの）「わいわいがやがや」や社会との関わりが健康につながると言われています。

多くの方が自粛生活を続けている中、コロナ禍でも人とのつながりを持つ企画ができないか、この年の生協強化月間チーム会議の中で考えた取り組みが「わたしのつながりチャレンジ」です。「いつでも健康チャレンジ」をアレンジし「人とのつながり」や「笑い・楽しみ」などをチャレンジ項目としました。感想のコメント欄も設けました。

各理事が「わたしのつながりチャレンジ」の用紙を持って組合員さんに配布しチャレンジしてもらいました。700人に参加してもらおうと目標を立てたところ、958人もの参加があり、99人の方から結果報告をいただきました。

そのコメントには「お友だちや別居の家族とラインや電話で煩雑に連絡を取りあって情報交換し笑っています」「つながることを再認識しました」「友だちや他の人にもすすめやすかった」などの声が寄せられ、コロナ禍でもたくさんの方々とのつながりを再認識した大きな取り組みとなりました。2021年度はこの取り組みを更に広めようと、全組合員さん約6,000人に配布しました。

今後も様々な取り組みを通して「人や社会とのつながりや、笑い、楽しさ」が「健康」につながることを広めていきたいと考えます。

わたしのつながりチャレンジ 回がふえれば笑顔がいっぱい！一日を振り返

チャレンジ項目 / 月 日	/	/	/	/
おしゃべりしたりテレビなどを見て笑った				
お出かけして後悔をかわした				
ありがとうなど感謝の言葉を伝えた				
手紙やはがき、メールなどを送った				
趣味や食べ物などの話をした				
お家で家族と楽しく食事した				
ボランティアや趣味の集まり、学習会などに参加した				
テレビ体操などで体を動かした				
ウォーキングや散歩などで外出した				
筋トレやバスル、読書などを楽しんだ				
家庭菜園や草花、庭木などの手入れをした				
その他自分でつながったことや楽しめたこと、笑いに繋がったことなど自由に				

★よろしければチャレンジした感想などをお書いて、結果を医療福祉生協までご連絡お待ちください。FAXしてください。
FAX/0744-23-1170 締め切り:2022年3月末日



環境のページ

コロナ禍の気候変動対策に取り組むNPO等とともに カーボンニュートラルをめざす オンラインセミナーを開催

2021年度近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度を活用した奈良ストップ温暖化の会の「気候危機とコロナ危機における再生可能エネルギー普及をめざすオンラインセミナー」が年2回開催されました。(共催：(一社)地域未来エネルギー奈良、奈良県生協連、近畿労働金庫) 第1回は2021年10月19日51名がオンライン参加、第2回は1月25日14時から2時間開催し、行政やNPO40名がオンラインで参加しました。

気候ネットワークの豊田陽介さんから「コロナ禍の気候変動対策、国内外の再生可能エネルギーの動向」の講演があり、奈良県環境政策課城山弥美美さんから2021年度改定する「第4次奈良県エネルギービジョンについて」の情報提供があり、「パートナーシップによる県内再エネ導入事例紹介」として奈良市環境政策課の石飛智稔さんと障害者福祉施設かかしの会の堀田美恵子さんから市民共同発電の取り組み報告がありました。参加者から「日本人の気候への関心が薄いということがデータで確認され残念。無関心層にアプローチしていくかがカギ」「自治体や団体の取り組み事例の紹介は参考になる。一人一人の意識をもっと高めていく必要がある」「自治体、企業、団体、市民がともに考え行動することが必要。ネガティブでなく少しでも前向きにとらえて進めたい」などの意見が寄せられました。

講演会

「リオからSDGsへ～水を通してみると～」開催

講師 尾田栄章氏(元建設省河川局長、人と水・行基、解工師)

2022年1月30日、NPO法人サークルおてんとさん主催(共催：奈良県生協連、(一財)再エネ協同基金)の講演会が奈良県文化会館小ホールで開催され、感染予防対策の上、生協関係者、NPO、市民、報道関係者など29名が参加されました。

古代から水は重要な資源であり、人類は水を求めてアフリカから世界各地に旅立った。安全な水と適切な衛生施設はMDGsに大きく寄与しており、途上国での水くみに女性や子どもが重労働を強いられて教育を受けられないといったように、MDGsの目標の3分の1以上は水問題を解決すれば達成できることだった。国連の会議を日本の事務局として担ったその視点のお話がありました。MDGsができた背景やSDGsに移行した歴史、MDGsとSDGsの違いなどもお話いただきました。ヨーロッパや中東やアフリカなど井戸を掘って水を得る外国と、川から水を得る日本とでは、水に対する認識があまりにも違う。水に対する捉え方の多様性を認めないと、話は進まない。現在でも、国連では水に対する理解が異なっており、日本のように水が多すぎて困る「洪水」が起こることは考えられていませんでした。また、水の「質」も考えることが必要です。MDGsに関わられた尾田さんから、SDGsへの期待や今後についてのメッセージがありました。解決できないことはない。概念の違いをお互いに共有して、ケースバイケースでお互いが真剣に解決すべき問題を見つめて話し合うことで解決していける糸口が見つかると思う。お互いがしなやかに考えて行くことが大切だと話されました。



講演する尾田栄章さん

会場は感染対策のため
距離を置いています

ならコープ 子どもの未来アクション

～生きづらさや困りごとを抱える子どもたちが、ありのままに受け入れられる社会を目指して～

市民生活協同組合ならコープ 組織部 工藤利香

3月9日、日本生活協同組合連合会主催「子どもの未来アクションフォーラム(基調講演:認定NPO法人全国こども食堂支援センターむすびえ理事長・湯浅誠氏)」が開催され、ならコープの「子どもの未来アクション」の取り組みから見てきたことを報告しました。

近年、日本でも7人に1人の子どもが貧困状態で、大半が周囲から孤立しています。奈良県生活協同組合連合会、特定非営利活動法人フードバンク奈良等との大学生パントリー「若者応援プロジェクト奈良」では「苦しいけど苦しくないふりをするのがすごく苦しい」等の深刻な声が寄せられました。一方、周囲の大人は子どもが困っていたら助けたい。でも、「私に何ができるかわからない」。だから学習会のワークショップでは「親が悪い、役所が何とかすればいい」の話になります。中には「私のまわりにはそんな子はいない」という声もあります。

そのような中、ならコープ未来アクションでは、この問題を遠くて難しいものにならないように「知らせ続けること」と「一緒に考え続けること」を大切に学習会やフードドライブ、文房具を通したつながりづくりに取り組んでいます。

今回、湯浅氏からは、貧困の子どもには「赤信号」と「黄信号」があり、圧倒的多数の「黄信号」の子どもは、「青信号」の顔をして行ける公園やお祭りには行っても、家のことを問われる相談室には行かない。こども食堂も貧困の子どもをあぶりだす場所ではなく、専門家にも難しい「黄信号」の子どもにつながる場だとのお話がありました。今後も、すべての子ども達の「こんなことをやってみたい」「こんな生き方をしたい」という思いを、その子の置かれている状況もすべてありのままに受け入れ、寄り添う社会を目指すすめていきます。

防災

奈良県防災統括室との懇談会

1月13日に防災統括室をならコープ(木村総務企画部長、岡本同担当)と奈良県生協連(山本専務)が訪問し、情報交換を行いました。中野順平防災統括室長、西野駿作同防災施設係と双方のBCPの取り組みについて交流しました。令和3年度救援物資回上訓練(2月4日)実施要領に基づきならコープが物資調達訓練に参加しました。

多様な主体間における 連携促進のための研修会

2月24日に内閣府主催で三者連携(行政・社協・NPO/中間組織)の連携促進のために研修がありました。佐賀災害支援プラットフォームから令和3年8月豪雨の官民連携の取り組み報告の後、演習テーマ「被災者の困りごとへの対応から連携・協働を考える」「災害時の情報共有会議のあり方を考える」をグループワークで課題化しました。今回の演習で出された課題を三者のBCPや災害対応マニュアルに反映していきます。

関西災害時物資供給協議会総会

3月10日に令和3年度関西災害時物資供給協議会総会が開催されました。令和3年度「関西広域連合の取り組み報告」、ヤマト運輸株式会社「BCPの取り組み」、SOMPOリスクマネジメント株式会社「ラストマイルにおける支援物資輸送・拠点開設・運営の体制構築」などの防災に向けた取り組み事例が報告されました。

ヤフー株式会社 SR推進統括本部森 禎行マネージャーから「防災とDX～『ヤフー防災模試』を踏まえて～」の講演と「防災模試」を体験し、ディスカッションで内容を深めました。

「ヤフー防災模試」は様々な防災への取り組みを行っているヤフー株式会社から、災害時に身を守る知識をすべての人へ届けたいという思いから始めたものです。スマートフォンから受験できますので防災の知識の確認のためお試ください。



第23回近畿農政局と 近畿地区生協府県連協議会との意見交換会

3月1日に24名の参加でオンライン開催されました。意見交換会を通じて農業全般の情勢や課題を学び、他生協の取り組み報告を通じて交流できる貴重な場となっています。

大坪正人近畿農政局長から「みどりの食料システム戦略」を通じて「農業従事者の担い手の育成・確保」「有機農業の取り組み」「SDGsと環境をめぐる課題」などの報告があり、質疑と意見交換をしました。ならコープ「地産地消の取り組みと今後の課題」、コープこうべ「組合員と進める食品ロス削減!」、わかやま市民生活協同組合「生産者と消費者である組合員と交流し、産地を守る活動」について各取り組み報告があり、質疑と意見交換をしました。



『労働者協同組合法』が 10月1日に施行されます



事業所仲間とコーディネーター養成体験会
「ボール DE ウォーク」に参加

日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)
連合会 センター事業団 奈良東事業所
神川 吉章

地域にはそれぞれの暮らしで困っている人たちがたくさんいる。生きづらい、働きづらいと感じている人たちもたくさんいる。

社会には、地域において不可欠な仕事・やってみたい仕事はたくさんあるはずなのに、お金や人が集まらず、働きがいと収入や暮らしとの両立ができない。

「志を共有した仲間がお金を出し合って(出資原則)」「お互い意見をぶ

つけ合いながら経営し(意見反映原則)」「仲間が誇りと希望をもって各々の地域において持続可能な仕事に従事する(従事原則)」。

この三原則が、今年10月1日に施行される『労働者協同組合法』第一条に謳われる「基本原理」です。1980年の「レイドロー報告」では、労働者協同組合は「資本が労働を雇う」のではなく、「労働が資本を雇う」もので、これが発展すれば「新しい産業革命の先導役になるだろう」とあります。

「協同」という、思いやり・助け合いの精神が年々失われつつあると強く感じます。今一度この法施行を機会に、現在のコミュニティにおいて再生しなければいけないのではないかと考える「協同」のチカラを信じ、そしてそれをさらに培いながら、人間的で、社会的で、自然な形としての「協同によって組織する協同労働」「働く人どうしが共同し、利用する人と協同し、地域に協同を拡げる労働」を目指していきたいと思います。

私はいま、17名の組合員とともに出資しながら、病院や介護施設の送迎・当直・清掃・売店の事業に就いています。その事業運営において特に厚い壁として存在するのは、日々の「よい仕事」と「増資」への取り組み方です。各組合員間の格差や思いの相異が年々大きくなってきます。「今日の仕事をそつなくこなし報酬を得られればそれでいい」。事業の経営状態などは他人事、つまり、出資して経営している感覚が時の経過とともに薄れて来ます。どうしても雇用労働感覚に染まってしまう組合員が出てくるのは仕方ないかもしれません。

3年前より、仲間全員で経営改革を実践すべく、日頃の「対話」をもっとも重視し、従前は殆ど行われなかった「団会議(私たち事業団の会議名称)」を月一回といわず頻繁に開き、各部門では経営上のコミュニケーションを日常的に持とうと皆が努力した結果、原価率も少しずつ改善してきています。冒頭の法三原則のうち2番目の「意見反映」。その重要さと難しさを実感しています。各組合員がそれぞれ主人公となり「経営者」として、かつ「じぶん事」としての参画意識が芽生え、現在は「よりよい仕事」に向かっています。

さて、紙面をお借りしてのPRです。

同法施行をまえに、奈良県でも5月22日の日曜日、奈良春日野国際フォーラム<菟>で『労協法フォーラムなら』として学習会を開催させていただきます。協同組合連携の一助になれば幸いです。ぜひご参加ください。

1月

- 11日(火)~12日(水) 日本生協連全国方針検討集会
12日(水) 生協組合員理事交流会実行委員会
13日(木) 奈良県防災統括室との懇談会
13日(木) ピースアクションをすすめる会
18日(火) 奈良防災プラットフォーム連絡会定例会
19日(水) 若者応援プロジェクト奈良(奈良大学フードパントリー実施)
20日(木) 第32期臨時総会(役員補充選任)
20日(木) 第5回生協連理事会
21日(金) 生協組合員理事交流会
25日(火) オンラインセミナー「気候危機とコロナ危機における再生可能エネルギー普及をめざす」(共催)
27日(木) 日本生協連地連運営委員会・県連活動推進会議

- 28日(金) なら消費者ねっと理事会
29日(土) 憲法学習会「コロナ禍で見えてきた憲法の大切さ」(共催)
30日(日) 第10回「奈良県のヒバクシャの声」手記集編集委員会
30日(日) サークルおてんとさん講演会「リオからSDGsへ～水を通して～」(共催)
31日(月) 奈良県環境審議会水質部会

2月

- 1日(火) 若者応援プロジェクト奈良(奈良教育大学フードパントリー実施)
3日(木) 第5回ビジョン検討委員会
4日(金) 奈良県環境審議会
12日(土) ピースかふえⅢ「ヒロシマの誓いサーロー節子とともに」映画上映会
15日(火) 奈良防災プラットフォーム連絡会定例会

- 24日(木) 内閣府「連携関係づくり研修」
25日(金) なら消費者ねっと理事会

3月

- 1日(火) 近畿農政局と近畿地区生協府県連との意見交換会
2日(水) ピースアクションをすすめる会
8日(火) 日本生協連大規模災害対策連絡会
10日(木) 令和3年度関西災害時物資供給協議会総会
11日(金) 第3回近畿地区生協府県連協議会(大阪)
12日(土) 第11回「奈良県のヒバクシャの声」手記集編集委員会
13日(日) フードバンク交流会
17日(木) 第6回生協連理事会
23日(水) 奈良県消費生活審議会
25日(金) なら消費者ねっと理事会
31日(木) 日本生協連地連運営委員会地区別総会議案検討会議

公示 奈良県生活協同組合連合会 第33期通常総会開催について

当会 定款第49条にもとづき、奈良県生活協同組合連合会第33期通常総会を下記の通り、開催致します。

奈良県生活協同組合連合会 会長 森 宏之

- 日時：2022年6月25日(土) 10:00~12:30
- 場所：奈良ロイヤルホテル 〒630-8001 奈良市法華寺町 254-1
- 議案：第1号議案 2021年度事業報告・決算関係書類承認の件 第2号議案 2022年度事業計画及び予算案決定の件
第3号議案 奈良県生協連2030年ビジョン承認の件 第4号議案 役員選任の件
第5号議案 役員報酬決定の件
- 選出について：会員規約第3条及び第4条にもとづき、代議員は、会員ごとに定める選出方法により選出し、会員生協の定数は各3人とします。

編集後記

ロシア軍によるウクライナ侵攻で多くの方々が被害にあわれ、お亡くなりになられています。戦後77年経ちましたが人類史上、このような痛ましい歴史が繰り返されることは非常に悲しく残念です。戦争のない平和な社会を望む声が反映され、ロシアの侵攻が早く収束することを切に願います

(弘)

サーロー節子さんの映画を見て、感動し、涙し、元気をもらった。その2週間後、ロシアによる核の威嚇と特別態勢。国連事務総長は「核衝突の可能性が現実のもの」と。一方、国内では「核の共有」発言。そして連日多くの子どもたちや市民の傷つく姿に胸が痛む。

(和)

桃の節句に長男夫婦に女の赤ちゃんが生まれました。苦勞してやっと授かった命。一方で戦争や紛争や飢餓や虐待で失われる命。「誰ひとり取り残さない」目標がますます遠のく...

(順)

母が残した本の中に「私の戦争体験記」という当時の方が書いた手記が出てきました。今、プロバガンダが飛び交い、言論統制が行われているロシアと同じことが日本でもあったと書かれています。国は違っても歴史は繰り返され子どもや一般市民が巻き込まれています。こんなことが繰り返されない時代が早く来てほしいです。

(佳)